

生物園地

古典にも登場・親しみ深い鳥の群れ

ユリカモメは白い体に灰色の羽を持ち、くちばしと足が赤く、群れをなして飛んでいる様はとても美しいものです。

冬場には利根川河口懸付近の水面などでよく群れを見ることが出来ます。夏はユーラシア大陸北部など北の方で繁殖のために過ごし、冬には日本の海岸や河川に渡来します。食性は雑食で、小魚、エビなど何でも食べるそうです。

古典「伊勢物語 九段・東下り」に「都鳥(ミヤコドリ)」という鳥が登場します。この鳥は、京(都)から東の方へ旅する男が、武蔵国と下総国とのあいだに流れる隅田川を舟で渡るときに見た鳥で、

この時代の京(都)では見かけない鳥なので、呼び名を確認すると「都鳥」だというので、京(都)を懐かしんで詩を詠んだというものです。

詠われている鳥の特徴からして、この「都鳥」は、どうやら「ユリカモメ」のことだと推定されるそうです。いろんな説があるようですが、昔から良く知られている鳥です。近年では昭和40年に東京都の鳥として「ユリカモメ」が指定されるなど、ますます親しまれる鳥となっています。



河口堰周辺散歩

ニューコーナー

日差しが強くなってきましたが、散歩やランニングで、利根川河口堰周辺の堤防やその周辺を利用してみるのは如何でしょうか。

皆さん、ご存じですか。



こじゆりん公園までの散歩の途中、黒部川の水辺に目を落とすと、真菘蒲の群生が色あざやかに咲き、周辺の水田の中ではアイガモがいそがしく縦横に泳ぎ回り稲の株元をつつく。その愛らしい仕草が心を慰めてくれます。



太陽が照りつけても川風がその暑さを和らげてくれます。

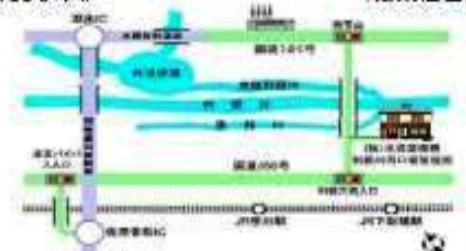


利根川河口堰の駐車場に車を置いて、散歩やランニングを楽しんだ後、河口堰管理所1階の展示ホールで休憩を取られながら、利根川の歴史探訪をされるのはいかがですか？

編集後記

この「河口堰だより」も、平成15年9月に創刊して第15号まで発行してまいりました。その間、読者の皆様からの声援や励まし、ご意見やご要望も頂き、その中に「紙書きは読みづらい」「そろそろ誌面を替えては」とのお声がありました。編集担当職員で検討した結果、この第16号を機にリニューアルをしてみようとなり、このような様式になりました。いかがでしょうか？また、感想や意

見、ご要望をお聞かせ下さい。よろしくお願いたします。(編集担当)



地域を守る新止堰

第16号

河口堰だより

発行所
独立行政法人 水資源機構
利根川下流総合管理所
利根川河口堰管理所
Tel 0478-86-0477

利根川河口堰ホームページアドレス
<http://www.water.go.jp/kanto/fonekako/index.html>

平成19年6月

地域・ユーザーの声

インタビュー

東庄ライオンズクラブ
会長 田汲 清夫



〇ライオンズクラブとはどのような組織ですか。

正式には、「ライオンズクラブ国際協会」といって、1917年アメリカ合衆国シカゴ市で誕生しました。全世界で200ヶ国にあり、約130.5万人が会員として登録されており、地域社会のニーズに応えるべく奉仕活動を実施しています。

利根川河口堰管理所では、今年度より黒部川流域や周辺においていろいろな活動をされている団体に、インタビューし、それを記事とすることといたしました。

日本には1952年に誕生し、現在全国を8つに分け約3,400クラブ約12万人の会員を擁し、千葉県には10ブロック130クラブの3,609名が登録されています。

最初のインタビューは、黒部川の清掃活動に長年従事されている東庄ライオンズクラブ会長の田汲さんにご協力いただきました。

ライオンズクラブは、「ウィ・サーブ(We Serve)」、日本語に訳すと妻々は奉仕するをモットーに「オンリーワン・ナンバーワン、奉仕の心は日本から」を今年度のガバナースローガンに掲げて活動しております。

〇長年、黒部川清掃について奉仕されていますが

〇東庄ライオンズクラブについて教えてください。

黒部川及び折沼川流域の河川清掃については、ライオンズクラブでは毎年10月中旬に東庄町をはじめ、笹川漁業協同組合、水資源機構、国土交通省、香取地域整備センター(旧土木事務所)さんの後援で行っている。ライオンズクラブの他には、七花会、愛釣会などを中心に毎年60名くらいが集まり、黒部川を中心にゴミの清掃・収集などを行っております。

東庄ライオンズクラブは、千葉県(3330地区)の第7リジョン第1ゾーンに属し、会員25名、平均年齢67歳で、千葉県のガバナーが出す年間の活動方針に従って、各会長がスローガンを作成し、それに基づいて活動しております。

これは、ライオンズクラブ国際協会が毎年10月8日をライオンズ・デーと定め活発な記念事業行っていますが、東庄ライオンズクラブでもこのライオンズ・デーの月に合わせて実施しているものです。

ライオンズクラブは、地域毎、クラブ毎によっても活動は独自性を持って行っており異なる活動を行っています。また、役員の任期は1年です。

〇河口堰でも水門にゴミが漂着していることがありますか？

他の地区では〇〇町ライオンズクラブと言う名称で活動しているクラブもありますが、当クラブは町という名称は入りませんし、町の組織でもありません。

ゴミは減っていないように思います。人が行けないところは、漁協の舟でゴミを取ったり集めたりしています。

活動についてお話しすると、7月から翌年の6月までの一年間の活動方針・施策の具体的な方法や運営の方策をたてて活動することとしており、

【明るく元気で、真心奉仕】を今年度の会長スローガンとし、地域社会への奉仕活動の推進、会員相互の友情を深めながら充実した運営に努めております。今年はこのようなことを重点にして、こんな施策をやっていきますということになっていますが、アクティビティについては継続的な活動が主になっています。

当クラブの主なものは、香取学園の月見の会や北総育成園のクリスマス会や環境美化協力として七花会への援助、献血の町協力、青少年健全育成活動などを行っております。

〇今後の活動についてお聞かせ下さい。

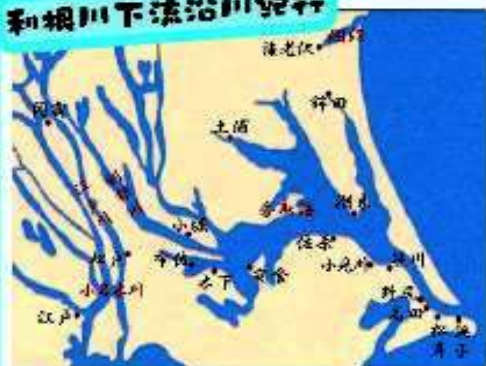
来年11月、東庄ライオンズクラブは、設立40周年を迎えることから記念行事を予定しております。東京の羽田ライオンズクラブや共に姉妹締結を結んでいる韓国ニュー鍾路ライオンズクラブと交流を深めることとしております。

今後の活躍を期待しております。貴重なお時間を拝借しありがとうございます。

※総会がパナー・ライオンズクラブ連合会の千葉県最高幹部会をいいます。
※アクティビティ：ライオンズクラブが、その地域社会などに対して行うあらゆる奉仕活動のことをいいます。

411115

利根川下流沿川旅行



利根川下流域舟運

船子・松岸両河岸からは、夏は生簀仕立の船で醤油・農産物などを、関宿廻り江戸川・小名木川を経て、直接江戸へ運び、それ以外の季節はなま船で、夕方船子を出て早朝に布佐河岸に着けて荷を下ろし、陸路を馬の背に積み居までに松戸に運び、ここからまた船に積み夕方、日本橋に着くというコースであった。

野尻・高日河岸からは、近隣の農作物の他に、九十九里方面の干鰯・メ箱・魚油などが陸路を運ばれ、両河岸から船により出荷された。登川・小見川の両河岸からは、醤油・薬工品・米など農作物が、佐原河岸からは、酒・薬工品・米などが出荷され、安食・木下・布佐の各河岸は、その陸路との中継地点になっていた。

また、頁北地方からの積み荷は、船子利根川河口は岩礁が広がり、浅く航路が狭く危険であっ

たので、茨城県の那珂川河口の漕漕に入り、両端の茨城町(海老沢)河岸で荷を下ろし、北浦北端の銚日河岸までの約15kmを多数の人馬により陸路で、ここから舟で潮来に運び、土浦から運ばれた霞ヶ浦の荷とともに大型の高瀬船で利根川を航行し江戸へと出荷された。

慶長14年に米沢藩や久保田藩(佐竹)などにより、船子開港がなされた。

明治12年には日本で最初の蒸気船(内国海運)「通運丸」が、その後、明治15年に船子汽船の「船子丸」が利根川に就航し、日本橋河岸まで約26時間を要したとされている。

木下河岸(茶船)

下利根地方は有名な香取、鹿島、息栖の三社があり、また、水郷地帯の風光明媚な景色が名高く、三社を巡拝しながら景色を楽しむという船旅に江戸を初め各地からやってきた。それらの旅行者を乗せて利根川を上下したのが木下河岸に発着する「木下茶船」と呼ばれる遊覧船で、当時の資料によると安永7年から天明9年頃までの12年間の平均で年間約4350隻、1万7千人が利用していたといわれる。

木下の地名の由来は、江戸時代に利根川に木をおろしたり河岸場として来たことから、この地名が生まれたといわれる。

小瀬河岸

我孫子市の利根川沿いには、古来、根跡の沼地がある。昔この付近の利根川本流は、大きく曲がり南流し、古利根沼地から下流部

でさらに北上し、現在の本流部に戻り流れていた。

舟運時代のころ、船子方面から江戸に向かう高瀬船は、ちょうど小堀河岸当たりで一日目の泊地となっていた。この辺りの中幹地区の台地が風よけとなり、絶好の場所となっていた。またここから上流部は、浅瀬が多いので高瀬船の積み荷の一部を野下船と言われた小型船に積み替える河岸でもあった。

小堀河岸はこの頃の本流の北側で左岸となっていたが、明治から大正にかけて流路の改修により現在の流路に変えられ、右岸側に取り残され、現在の「古利根沼」となっている。



黒部川より古利根沼地を眺む

利根川愛好会会長
林 敏夫

●1 1時30分始発 ●2 2時に50分 ●3 3時に60分 ●4 13時30分

イベント案内

河口堰フェスタ2007



2007年8月4(土)
9:30 ~ 15:30
雨天中止、小雨決行

利根川河口堰管理所では、「水の週間」にちなんだ行事として、『河口堰フェスタ2007』と銘打って、管理所構内を一般開放し、当管理所と同じく頁庄町にある千葉用水総合事業所東総管理所と合同でイベントを開催します。

構内では水や施設に関するビデオの上映やさまざまな展示を行うとともに、皆さんに持ち寄っていただいた水の水質検査や簡単な濾過実験

の体験が出来るコーナーや、普段は見ることの出来ない河口堰を動かす操作室や、巡視船により利根川からの河口堰施設の見学コーナーを企画しております。



この他に、お子さんがリラックスして遊べる新水・遊水コーナーなどを用意して皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

担当者からのご挨拶

当日、皆さんにお持ちいただく水は、家の廻り・池や川などで採取した水でかまいません。500mLペットボトルなどに詰めてお持ちください。

短信・河口堰

黒部川流域の清掃活動

東総広域水道企業団主催の黒部川流域の清掃作業が、6月5日に行われました。当日は旭市水道課、東庄町、東総広域水道企業団、水資源機構の有志42名が集まり、黒部川の堤防に投棄された空き缶、空きビン、ペットボトル、廃材等の分別収集を行いました。



この活動は清掃作業をとおして「黒部川をもっときれいに・大切にしよう」と黒部川を使用する人々全員に感じてもらう事を目的として実施されています。

出水期に備え、連携を密に

6月13日、国土交通省利根川下流河川事務所小見川出張所、千葉県香取地域整備センター小見川出張所、水資源機構利根川河口堰管理所の三者において、平成19年度出水期前の黒部川防災情報について意見交換を行いました。



これは、黒部川の出水時の防災対応について確認するとともに黒部川に関わる各排水機構運転と黒部川水門操作の相互の連携について再確認を行ったものです。